

「郵便料金が来年から値上げされるけど、あなたの通信は大丈夫なの?」。別の読者からは「通信からいっばい、あなたの元氣を受け取っています」と切手が同封されています。ひと晩かかって発送を終えたわが家のミニコミ「銀河通信」を眺んだ読者から一通、二通と手紙を受け取るの何よりうれしいひとときです。

「銀河通信」は八八年七月に創刊。以来、B4判六頁の手書き新聞を毎月出し続けて五年、五十七号になりました。



樋口みな子

## 主婦ってすてき思い新た

発行のきっかけは息子・遼で拍手して喜んだものです。このことを通してのちへの思いが、より深まりました。この感動を伝えたいな—と思ったのは、生後一カ月から、息子を保育園に預けて働いていた私は、育児に手を

独身のころ、自然保護や市民運動で出会った友人や仲間を眺めて、子育てを楽しむというふろに始めた通信が、今では全国に広がり九十人になりました。今思うと、小さな子どもを抱えての共働きは決して楽ではな

れ)た通信とは言えないけれど、子育てを楽しむというふろに気持ちを交えられたし、何より一番大きな財産は、共働きで仲間といっばい出会えたことだと思います。各地からは交換で反原発や福祉などいろんなミニコミが送られてきます。その編集人のほとんどが女性です。同世代の彼女たちのなんとパワフルでしなやかなことか。共通しているのは、いのちの側に立った情報

かかれなかつた。この思いがわが子だけでなく、未来を担う子どもたちに安心して暮らせる地球を残したいという願いになり、環境や平和、福祉のことなど、主編ってすてきと思えるの記事で、お世辞にも洒落(しゃ)です。(「銀河通信」編集発行人)